

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900037		
法人名	社会福祉法人 福実会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ちかのり苑(こすもす通り ユニット)		
所在地	岡山県高梁市落合町近似1324-2		
自己評価作成日	平成23年12月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390900037&amp;SCD=320&amp;PCD=33">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390900037&amp;SCD=320&amp;PCD=33</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年1月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた、明るいオープンな施設内で、楽しく安心して生活して頂けるよう努めている。個人の能力や良い面を見極め、引き出せるようアプローチし、共に行動や作業をする事で、やりがいや喜び、満足感を感じ、グループホームでの生活が安定して送れるよう努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた高台にあり、気候の良い時は、高梁の街を一望できるテラスでお茶や食事が楽しめる。敷地内の菜園では季節の野菜を育てている。そして、採光が工夫された建物は、長時間、陽が差し込み、とても明るい。白を基調とした内装に、木の梁や床が落ち着いた雰囲気を醸し出して、居心地の良さを演出している。利用者は職員の明るい声に包まれながらレクリエーションを楽しんだり、食事の下ごしらえを手伝ったりして、体を動かしていた。しばらくすると椅子に腰かけておしゃべりをしたり、テレビや新聞を楽しんだりと、くつろいだ時間を過ごしていた。動と静のメリハリの利かせ方が、うまく利用者の生活リズムを作っている。また、職員は、利用者の希望に応じて、居室づくりに力を入れている。部屋全体がまるで「作品」のような、非常に個性的な居室もある。一人ひとりが皆、表情が豊かで、生き生きとした生活を送っていた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに理念を掲示して、意識の共有を図っている。また、各種ミーティングにおいて必要に応じ説明したり再確認している。実践面にはまだ不足な所あり。	法人の理念を核としながら、会議で話し合ったユニットごとの介護目標を立てて、日々の業務に当たっている。前回の外部評価で提言された月間目標もユニットごとで立てている。いずれは効果測定もしたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭りや学童保育の餅つきに参加し交流している。散歩や外出時、地域の人への積極的な挨拶や声掛けをし、交流やアピールできるよう働きかけている。	外出が十分可能な利用者と、近隣のイベントに出かけて、地域の人や子供と交流を図る機会を作っている。また、階下の小規模多機能居宅介護に通う知人に会いに行けるようになど、馴染みの関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事への参加案内を通じ、施設の内容を知ってもらえるよう取り組んでいるが、地域へ向けての発信、交流はまだ出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に現状報告を行い、意見交換や改善点などのアドバイスを受けたりしている。議事録等の回覧やユニット会議での報告で職員へ周知すると共に意見を反映させている。	階下の小規模多機能居宅介護との合同開催で、市職員や地域住民が主に参加するが、母親クラブ等、その幅が広がりつつある。家族の参加は仕事の都合などで少ない。事業所への理解が進み、また近隣の高齢者の相談を受ける場になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ相談し、アドバイスを受け、関係作りに取り組んでいる。	市とは推進会議以外に各種の質疑応答などを通じて交流がある。地域包括支援センターとも入居の問い合わせや紹介等を通じて行き来があり、この連携により、法人内の他事業所も含め、円滑なサービス提供につながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の元に、職員への学習を深めている。施錠に関しては、出入口の電子錠と夜間一部の場所に南京錠の使用があり、今後の検討課題である。	身体拘束は見受けられない。「ちょっと待つて」のような利用者の行動を規制する言葉が出ないように気をつけているが、解消までには至っていない。今年度拘束委員会を立ち上げ、利用者の意志の尊重を重視する意識づくりを始めた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理解を深め、実践できるよう努めている。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を今後行うことで学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明をし、疑問点なども併せて聞き、納得してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や請求書送付時に本人の様子の報告をしたり、家族からの要望や意見を聞き、全職員へも会議や連絡帳を通じ報告しサービスへつなげるようにしている。	家族からの意見は情報の一元化のためリーダー以上が収集し、返答は主に口頭で行っている。基本的には管理者が行い、不在時はリーダーが代行している。受診報告など家族への伝達事項は、連絡帳に記載し、職員への周知を促している。	家族からの意見に対して、対応した内容や顛末を、手紙や事業所便りなどの文書で、確実に家族にお知らせするよう、期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や会議の場で機会を設けて意見を聞くように努めているが、提案が表出しない現実もあり、運営に関して認識が不足している気もする。施設長への提案まで発展していない。	会議での意見は出にくいですが、個人面談など1対1の場では提案等が出る。例えば、利用者用と職員用の冷蔵庫を分けたり、より使いやすい掃除道具に変えたい等の職員からの要望を施設長が聞き入れ、物品の調達ができたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生面に関し、不足の声がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が増え、取り組みはしているが、人員の関係で参加できないこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加を促し、機会作りを図っているが、なかなか他施設との交流は出来ていない現状である。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取りや、本人との面接において情報を把握すると共に、安心感を持ってもらえるような関係作りに努めている。また、記録に起こし情報共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人から学ぶことも多くあり、ともに生活している雰囲気づくりや関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向を家族に伝え、協力関係の必要性をアピールするとともに、来苑・面会について歓迎し、訪問しやすい雰囲気作り・対応をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受け入れは出来ているが、こちらから出向くことが出来ていない。	建物内の他の事業所へ通う知り合いと会う支援や、家族へは来訪を促す努力をしている。年末年始の機会に家族間の触れ合いを提案する手紙を出したら、2名の利用者が家族の元で過ごせた。普段も買い物や一時帰宅等は家族の協力を頼っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフの仲介や介入で、トラブル防止に努めている。孤立しそうな人へは、スタッフが1対1での関わりを実施し支えるようプランにも挙げたりしている。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されると出来にくい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にしっかり関わり、観察することで把握に努めている。	利用者とはじっくり話をして思いを聞き出している。コーヒー好きの人にはコーヒーを出し、お菓子の好きな人にはおやつと一緒に作り、外に出たい人には一緒に散歩や買い物に行く。他に迷惑がからなければ、時間と量を決めて晩酌も認めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。わからない部分は入居後の本人の様子から把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録で現状を記入、把握し、スタッフ全員がわかるようにしている。身体状態については、個別に必要な応じ対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い実施している。	どの家族もほぼ「落ち着いて長く過ごせるよう」との意向を持ち、それに応えるよう介護計画を立てている。しかし、カンファレンスの記録やモニタリング方法等の整備が不十分で、管理者も課題としてとらえ、改善したいと考えている。	介護計画の日々の実践を通じ、次の介護にどのようなつながっていくか、そのためにはどのような観察をし、記録に残していくかなどを検討し、改善につなげることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、記入はしているが、プラン実施に対しての評価としての記録は今一つである。今後も指導の必要あり。見直しに関しては情報共有も含め出来ているように思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ていないと思われる。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪ボラの利用、かかりつけ医の往診、消防機関との連携や避難訓練など安心・安全な生活ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ継続して診てもらっている。常に本人の状態に気をつけ、受診時家人へ口頭や文書によりDr.への報告、相談もしている。	往診可能な協力医にかかりつけ医を変更する人もいますが、今までの医師を継続する人が多く、その場合は家族が受診に付き添う。どちらの場合も、本人の状態をできるだけ医師に伝えられるようにし、適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームにナース不在のため、小規模のナースに相談し指示を受けたり、家族への報告やかかりつけ医に報告し、必要に応じ受診したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行うと共に、ソーシャルワーカーとの連携をとっている。入院中の様子把握のため、面会も実施し、ナースより病状説明を受ける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、施設としての方針を理解してもらっている。	基本的に看取りは行っていない。長期入院や常時医療行為が必要か否かは医師の判断に委ねている。重要事項説明書には緊急時の対応が記され、契約時に説明しているが、重度化や終末期に向けた方針は文書化されていない。	重度化や終末期に向けた方針を明確に記した文書を用意して、家族に誤解が生じないように、家族に十分な説明と話し合いをし、同意書を受け取ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修において緊急時に備え学習を深めている。定期的な訓練はなかなか実施できないが、日々の業務の中でのアドバイスは適時行っている。実践力についても個人差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練をしたり、防災委員主催の研修会で避難方法などの学習をしている。	防災委員の活動により、避難方法や経路の周知徹底、さらに職員の召集や避難完了に要する時間を計るなど、実践的な訓練ができています。昼間想定訓練時は消防署に立ち会いをもらい、夜間想定時は実際に夕刻に実施している。	

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけそのように対応したり必要性を説明しているが、いつも出来ているとは言えない。	職員は、方言で気さくに利用者言葉がけし、ちょっとした行為にも「ありがとう」を添えていた。しかし、少し強い口調になることもあるので、「お風呂はいかがですか」のように自己決定を促す言葉を意識して使うよう、啓蒙中である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけの時本因果意思決定できるような質問にしてみたり、一方的な指示にならないように気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	しているが、意思決定の少ない人への支援が出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	している。	誕生日を迎える利用者の好物を盛り込むなど、食の楽しみを考えながら献立を作成している。下ごしらえや盛り付けは、衛生面に留意しつつ利用者手伝ってもら。職員も一緒に食卓を囲み、テレビを話題に、会話を楽しみながら食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を個人記録等に記入している。水分も不足しないように提供している。食欲不振者には補助食品や代替のものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけ、介助をしている。必要に応じ、歯科往診も依頼している。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握に努め、誘導や声掛け、介助をしている。失禁があってもすぐにおむつを利用するのではなく、状態に応じた対応を心がけている。	排泄パターン表を変更し、よりわかりやすいものになった。トイレでの排泄が大切と考え、おむつや紙パンツを安易に利用しない。できるだけ失敗しないよう、夜間も含め、定期的に声をかけトイレに誘導している。おむつ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいるが、運動の面については不足している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状、午後から夕食までの間を入浴時間としている。皮膚疾患、失禁のある人は、できるだけ入浴日を増やしている。	利用者の状態や意向により、入浴回数は週1回からほぼ毎日まで臨機応変に対処している。異性介助を嫌がる人には必ず同性介助にしたり、一人で入れる人には最低限の見守りに止めるなど、くつろいで入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や本人の希望により、日中でも休憩してもらったり、夜間不眠者には日中活動量を増やしたり、入浴を勧めている。また不眠時に話し相手になったり、お茶や少しのおやつなどを提供し満足して休まれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方効能を記載した処方箋をファイルし、理解・周知できるようにしている。日頃の観察をする事で変化に気がつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なことを情報収集した中から見つけ、スタッフとともに楽しみながら行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に散歩をしたり、買い物への同行で外出に向けて支援している。ドライブや紅葉狩りなど行事を設け外出できるようにしている。	周辺を散歩したり、敷地内の菜園で作業したり、テラスでお茶や食事をするなど、気候が良ければ、できる限り屋外で過ごすようにしている。買い物、地域イベント、利用者の出身地の文化祭、花見や紅葉見物など、予め目的地を決めての車での外出は、月2回程度まで増えた。	

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	約半数の人が自分でお金を持っており、買い物で好きなものを買ったりしている。ほかの人は家族、施設預りで必要に応じ買い物の代行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある人には電話を利用したり家族への依頼もしている。毎年、本人が年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	している。	木の梁が際立つ、日当たりの良い明るい、すっきりと片付けられた空間には、利用者の作品や行事の写真、草花が適度に飾られ、落ち着いた雰囲気となっている。こまめに喚起して空気の滞りを防ぐとともに、毎日のモップがけや掃き掃除で、常にきれいな状態を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置き、気の合った人同士で見たり、テーブル席も食事以外では席を変えてみたりと工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具の持ち込みをしてもらったり、本人の希望で配置も決めている。位牌、写真を持ち込み、供養する姿もある。	毎朝、窓を開けて清掃し、家具の上なども拭き、きれいにしている。一部の利用者には自室の掃除を手伝ってもらう。利用者の意向に合わせて、壁への作品掲示や整理など、利用者の意向を聞いて手伝い、その人らしい部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故や危険のない様、動線を整えている。トイレ、自室など必要に応じ目じるし等を貼ってわかりやすくしている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900037		
法人名	社会福祉法人 福実会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ちかのり苑(さくら通り ユニット)		
所在地	岡山県高梁市落合町近似1324-1		
自己評価作成日	平成23年12月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390900037&amp;SCD=320&amp;PCD=33">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390900037&amp;SCD=320&amp;PCD=33</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年1月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに理念を掲示して、意識の共有を図っている。また、各種ミーティングにおいて必要に応じ説明したり再確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭りや学童保育の餅つきに参加し交流している。散歩や外出時、地域の人への積極的な挨拶や声掛けをし、交流やアピールできるよう働きかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事への参加案内を通じ、施設の内容を知ってもらえるよう取り組んでいるが、地域へ向けての発信、交流はまだ出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に現状報告を行い、意見交換や改善点などのアドバイスを受けたりしている。議事録等の回覧やユニット会議での報告で職員へ周知すると共に意見を反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ相談し、アドバイスを受け、関係作りに取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の元に、職員への学習を深めている。施錠に関しては、出入口の電子錠と夜間一部の場所に南京錠の使用があり、今後の検討課題である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理解を深め、実践できるよう努めている。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで対象者が居なかったため、理解・活用はあまり出来ていない状態。制度に関するパンフレットなどの回覧はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明をし、疑問点なども併せて聞き、納得してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や請求書送付時に本人の様子の報告をしたり、家族からの要望や意見を聞き、全職員へも会議や連絡帳を通じ報告しサービスへつなげるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や会議の場で機会を設けて意見を聞くように努めているが、提案が表出しない現実もあり、運営に関して認識が不足している気もする。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談、評価表による個人の把握をし、代表者に報告し、働きやすい職場となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外での研修参加をし、質の向上に努めると共に、自己学習の必要性や方法、資格取得のアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加を促し、機会作りを図っているが、なかなか他施設との交流は出来ていない現状である。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取りや、本人との面接において情報を把握すると共に、安心感を持ってもらえるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状をしっかりと聴き、状況に応じたサービス提供が出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で出来ることは一緒にする事、どうすれば出来るのか、方法を含めて考える事で共に生活する一員である関係作りをしている。食事、お茶を一緒にし、談笑する事で共に生活しているという雰囲気づくりにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、明るく迎え入れることで良好な関係作りをしている。本人の様子の報告や自室でゆっくりお茶を飲みながら過ごせるよう環境づくりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、近所の方などの面会もOKである旨、家人にも知らせて訪ねてもらうようアプローチしている。また、小規模のデイサービスに知人が来る日には会いに行くなどの支援もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各人の性格を理解し、なじみの関係が出来るよう食事の席などにも配慮している。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談に応じているが、今まででは利用終了と共に関係が切れるパターンが多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えに傾聴し、把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報収集し、全職員で情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録で現状を記入、把握し、スタッフ全員がわかるようにしている。身体状態については、個別に必要な応じ対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの希望や生活歴などを元に計画作成者、スタッフでカンファレンスを行いプラン作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、記入はしているが、プラン実施に対するの評価としての記録は今一つである。今後も指導の必要あり。見直しに関しては情報共有も含め出来ているように思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状、できていない。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪ボラの利用、かかりつけ医の往診、消防機関との連携や避難訓練など安心・安全な生活ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ継続して診てもらっている。常に本人の状態に気をつけ、受診時家人へ口頭や文書によりDr.への報告、相談もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームにナース不在のため、小規模のナースに相談し指示を受けたり、家族への報告やかかりつけ医に報告し、必要に応じ受診したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行うと共に、ソーシャルワーカーとの連携をとっている。入院中の様子把握のため、面会も実施し、ナースより病状説明を受ける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、施設としての方針を理解してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修において緊急時に備え学習を深めている。定期的な訓練はなかなか実施できないが、日々の業務の中でのアドバイスは適時行っている。実践力についても個人差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練をしたり、防災委員主催の研修会で避難方法などの学習をしている。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているが、時として馴れ合いになったり、指示的言動がある時もあるため、今後も努力が必要である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴、関わりの中でしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態に合わせ、個別対応している。散歩や買い物、外出などもその時に応じてしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでもらったりしているが、要介助者が多いのでスタッフが選んだり勧めたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	している。献立も好きなものを入れたり、誕生日にも個人の希望のものを作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を個人記録等に記入している。水分も不足しないように提供している。食欲不振者には補助食品や代替のものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施している。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握に努め、誘導や声掛け、介助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握に努め、水分摂取をしっかりとるようにすすめている。朝食に牛乳やヨーグルトを提供し、排便を促す。主治医との相談で下剤の服薬をしている人もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状、午後から夕食までの間を入浴時間としている。皮膚疾患、失禁のある人は、できるだけ入浴日を増やしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や本人の希望により、日中でも休憩してもらったり、夜間不眠者には日中活動量を増やしたり、入浴を勧めている。また不眠時に話し相手になったり、お茶や少しのおやつなどを提供し満足して休まれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方効能を記載した処方箋をファイルし、理解・周知できるようにしている。日頃の観察をする事で変化に気づいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なことを情報収集した中から見つけ、スタッフとともに楽しみながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に散歩をしたり、買い物への同行で外出に向けて支援している。ドライブや紅葉狩りなど行事を設け外出できるようにしている。		

認知症対応型共同生活介護ちかのり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族管理や施設での預かりだが、何人かは自分持ちである。買い物同行時に好きなものを買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	しているが、手紙を書いたりされる方はほぼ居ない。家族には手紙の依頼をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクの中で季節の飾りを作り、施設内に飾ったり、外出・行事時の写真を貼ったりしている。花を生けて季節を感じてもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルの席は決まっているが、必要に応じて席替えをしている。今はコタツを設置してのんびり過ごしたり、テレビを見たり、他者との交流を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのタンスや家具を持ち込んでもらっている。また、ご主人の位牌を持参され、供養されている人もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故や危険のない様、動線を整えている。トイレ、自室など必要に応じ目じるし等を貼ってわかり易くしている。		